

【学校教育目標】 「自分とみんなのために」心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成
【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

玖城のほitori



大村市立大村小学校

学校だより

第12号

令和7年11月12日発行

文責：校長 堺 邦寿

★ 宿泊学習（5年生）・大村市小学校体育祭（6年生） ★

10月はどの学年も多くの行事があり、それぞれの行事を通して、大小っ子は大きく成長しています。それでは、5年生「宿泊学習」、6年生「大村市小学校体育祭」について、お知らせします。

◇◇◇ 宿泊学習（5年生）：国立諫早青少年自然の家 ◇◇◇

5年生は、10月15日（水）、16日（木）の2日間、国立諫早青少年自然の家（諫早市）に宿泊学習に行きました。運動場での出発式を終え、いざ出発。その時、体育館前から校舎の間に、ほかの学年の子どもたちがみんな集まり、盛大に見送ってくれました。この光景に、お互いを思い合う大小っ子の心の温かさを感じました。その後、バスに乗り込み、自然の家へ。初日の午前中は、野外で火起こしから材料の準備なども自分たちで行い、焼きそばを作り、おいしくいただきました。午後にはグリーンアドベンチャー、その後お楽しみの夕食を取り、しばしの休憩。そして、ナイトハイクへ向かいました。宿舎に戻ってきてからは、入浴、一日の反省等をすませ、22時に就寝。2日目は、起床後、身支度をすませ、7時からの朝の集いの後、朝食を取りました。その後、沢登りを行う予定でしたが、朝からの急な雨のため、焼き板づくりに変更。煙にしみる目をこすりながら、オリジナルの焼き板を作りました。その後は昼食をとり、退所式を行い、自然の家のスタッフの方へ感謝の言葉を伝え、バスで学校に戻ってきました。

この宿泊学習の実施に当たっては、2日間の友だちとの共同生活、自宅以外での宿泊や入浴などなど、子どもたちの中には多くの不安や心配がありました。でも2日間の経験を通して、この心配や不安は、自信と安心、そしてお互いに対する信頼へと変わりました。2日間の経験で、5年生は大きく成長することができました。

温かく送り出してくださった保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



☆☆☆ 大村市小学校体育祭（6年生）：大村市陸上競技場 ☆☆☆

6年生は、10月23日（木）、大村市陸上競技場にて、大村市小学校体育祭に参加しました。この小体祭は今年で76回目を数え、大村市出身の方々は、小学生時代に参加されたことを懐かしく思い出されることと思います。コロナ禍以降、午前中開催で6年生のみの参加となっておりますが、今年も市内15小学校と県立ろう学校、計16校の児童、約1,000名が一堂に会し、秋晴れのもと、盛大に開催されました。

6年生は、2学期のスタートと同時に練習や選手決めを行いました。連日の猛暑の影響を受け、なかなか思うように進めることができませんでしたが、朝早くの時間を使ったり、熱中症計を確認したりしながら、隙間の時間も大切にしながら練習を重ねてきました。当日は、私も子どもたちと一緒に応援席で競技の様子を参観しましたが、これまでの練習の成果を一生懸命発揮する姿に感動しました。また、友だちを応援する姿も、とても気持ちがよく、友だちの頑張りをみんなであたえ合う姿勢に、最高学年としての頼もしさを感じました。さすが大村小学校の6年生だと誇らしく思いました。



その6年生は、明日から佐賀・福岡・熊本方面への修学旅行に出かけます。多くの学びとともに、大切な思い出をつくってきてほしいと思います。

※裏面に木村指導教諭作成の「みんなちがってみんないい」No.7を載せております。お読みください。

～みんなちがって みんないい (その7)～

今回は自閉スペクトラム症 (ASD) についてお話しします。

昨年もお話ししましたが、自閉スペクトラム症の中核をなす障害は、「社会性の障害」「社会的コミュニケーションの障害」「常同行動と限定的な興味」の3つです。

以前は、その特性によって「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障害」など大きく5つに分類されていましたが、2013年に新版「精神障害の診断と統計マニュアル (アメリカ精神医学会: 通称 DSM-5) にあわせて、日本でも総称が統一され、「自閉スペクトラム症 (ASD; Autism Spectrum Disorder)」と呼ぶことになりました。

スペクトラムとは、「連続体」という考え方で、言葉や知的な遅れを重複している典型的な「自閉症」から、知能の遅れをどんどん軽くしていき、ほとんど知的な遅れがなくなった状態が「高機能自閉症」であり、そこから言葉の遅れを軽くしていき、言葉によるコミュニケーションにほとんど問題のない状態が「アスペルガー症候群」であると考えると分かりやすいと思います。

特性の程度や違いによって表出する個人の特性の差異は大きいけれど、根幹にあるものは同じであるという考え方になります。実は「連続体」という考え方は、SLDやADHDなど他の特性にも同じことが言えます。

自閉スペクトラム症は中枢神経系に、何らかの障害があるために起こると考えられていて、SLDやADHD同様、はっきりした原因は特定されていません。自閉スペクトラム症も生まれつきの障害であり、他の障害同様、現代の医学では薬や外科的治療で完治することはまだできませんが、服薬により状況が改善する場合があります。

少しだけ自閉スペクトラム症の歴史についてお話しします。1943年にアメリカの精神科医レオ・カナーが、初めて医学論文を発表したことで「自閉症」として広く認識されるようになりました。それまでは精神疾患と考えられていました。カナーが発表した「自閉症」は知的障害を伴うものであったため、今でも知的障害を伴う自閉スペクトラム症をカナー型と呼ぶことがあります。

翌1944年にはオーストリアの小児科医であ

るハンス・アスペルガーが「共感能力の欠如・友人関係を築き上げる能力の欠如・一方的な会話、限定的興味」などの特性をもつ「アスペルガー症候群」についての研究論文を発表しました。しかしこの論文はドイツ語で書かれていたことや第2次大戦が始まったことで永らく一般には知られていませんでした。1981年にイギリスの精神科医ローナ・ウィングがこの論文を基にした研究報告を行ったことで、一躍世界中に知られることになりました。現在DSM-5からは削除されましたが、自閉症の特徴がカナー型だけではないことが世界的に考えられるきっかけになりました。

昨年も紹介した米津玄師さんやイーロン・マスクさん、スーザン・ボイルさん、APPLE創業者の一人スティーブ・ジョブスさんなど、多くの人たちが自閉スペクトラム症であることを公表しています。先に述べた様々な特徴のいくつかを持ち合わせていることから、生活上の困難さを抱えています。自分の特性を理解した上で、その対処法を学び、それぞれ成功を掴んでいます。

近年、自閉スペクトラム症の診断を受ける人が増えていますが、急に増えたというより自閉スペクトラム症の研究が進んだと言えます。言葉も理解できて会話が成立し、生活上の困難さが限定的であるほど、周囲の理解が得にくく、わがままや頑固などと受け取られやすくなります。しかし実際は、本人にもコントロールし難い感情や拘りに悩まされていることが少なくありません。

現在、児童生徒に多く見られる自閉性に起因する困り感の主なものは、次のようにまとめることができます。「友人関係を築き上げる能力の低さ」特に同級生や同世代との交友関係を築くことが苦手で、年上や年下との関係を好むことが多い。「要点を要約した会話の難しさ」知的能力は低くないにも関わらず、言語処理能力が低く、相手が話している内容を正しく理解できずに取り違えたり、自分の思いをうまく言葉にすることが苦手だったりする。「自分の気持ちをうまく人に伝えられない社会性の弱さ」相手の気持ちを汲み取ることが苦手で、どのタイミングで話せばいいのか分からなかったり、話せずじまいだったりする。「特定の興味の有ることには強く執着し、興味のないことには取り組もうとしない」など好き嫌いに行動が左右されがちである、などでしょうか。